

「祈る」ということは、どこへ誰へ向けられたものとしても、目に見えないものへの語りかけであり、問いかけであり、願いを投げかけるものでしょう。また、人間は目に見えないものを想像し、願望することによって創造を繰り返してきました。歴史を通して続けられてきた人間の心の旅は創造の旅でもあり、これからも続けられていくものでしょう。こうしてタイトルの前半は「Homo Orans=祈る人」とつけられました。

そして、パイプオルガンは常に人の祈りに寄り添ってきた楽器です。祈りの楽器と、やはり祈りから発祥した舞踊、歌を音楽的な要素の中心に据えてプログラムを組みました。

私たちが祈りを通して心の中に内なる響きを知り、生きとし生けるものとの響き合いを感じ取り、地上だけではなく見えないものとの調和が起こるそこに、全ての存在が響きあって存在できる「世界の調和」があり得るのではないか、そしてそれはどのような宗教でも倫理観でも通る道は異なるにしても、到達しようとしている目的地はもしかしたら同じところなのではないかとの思いを胸に、タイトルの後半を「Harmonia Mundi=世界の調和へ」としました。

当日は、舞台芸術だけではなく、渋谷寿によって木で創られた音のでる造形作品「渦巻樹」と「スパイラルロード」も展示いたします。実際に手に取って頂け、五感で永遠性・普遍性を感じることができる作品です。

民族・宗教・時空の枠を超えて、音楽・言葉・踊り・創造物と被創造物が創り出す響きのうちに、マイクロコスモス・人間とマクロコスモス・宇宙の調和を、ほんの一瞬の断面でも感じていただける一時となるよう出演者、関係者一同心より願っています。

松本喜臣 まつもと よしおみ

(朗読・演出、俳優・演出家
劇団シアター・ウィークエンド代表)



早稲田大学文学部演劇科卒業。劇団シアター・ウィークエンド創立以来の上演作品の演出・出演多数。監修も務める。東海市青少年劇団「おうめい」演出・舞台指導。NHK、CBC連続テレビドラマ、名古屋テレビ、中京テレビ、テレビ愛知、FM愛知、東海ラジオ等出演多数。日本ナレーション演技研究所講師、中日文化センター・名鉄カルチャースクール講師。

伊藤充子 いとう みつこ

(ピアノ、名古屋女子大学教授)



名古屋市立菊里高等学校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ウィーン市立音楽院マスターコース受講ディプロマ取得。藤井賀寿恵、宇都宮淑子、A.イエンナーの諸氏に師事。ソロ・ジョイントリサイタル、室内楽、伴奏の他、ナゴヤシティ管弦楽団、名古屋新室内合奏団と協演など幅広く活動。名古屋女子大学教授。

岡真里子 おか まりこ

(ソプラノ、名古屋女子大学講師)



ウィーン国立音楽大学大学院リート・オラトリオ科修了。オーストリア国家演奏家資格を取得。第3回新人音楽コンクール声楽部門第2位。パッハのcantata等、宗教曲、オラトリオのソリストを多く務める。リサイタル等コンサートに多く出演。名古屋女子大学専任講師、愛知県芸術文化協会会員。愛知日本歌曲研究会会員。

眞崎雅子 まさき まさこ

(舞踊、名古屋女子大学特任講師)



愛媛大学文学部卒業、在学中はモダンダンス部に所属。同時にMOGAダンスカンパニーに所属し東京公演等に出演。筑波大学大学院体育研究科体育方法学・舞踊教育論専攻に進み、若松美樹・津田郁子自由ダンス公演に多数出演し、自作自演公演など主宰する。広島経済大学講師時代、第15回国民文化祭ジャズダンスフェスティバルに広島選抜メンバーとして出演。FREE PACKAGE (俳優座) や国際舞踊学会 (フィリピン) のショーケースに出演。名古屋女子大学特任講師。

倉田梓 くらた あずさ

(舞踊、名古屋女子大学助教)



幼少より松本道子バレエ団にて松本道子、藤田彰彦各氏に師事。筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻(舞踊研究室)修了、平山素子らに師事。ベルミバレエ学校日本校にてワガノワメソッド教授法全課程修了、ディプロマ取得。子どもたちへのバレエ指導に携わりながら、自身もダンサーとして日本バレエ協会「全国合同バレエの夕べ」などに出演。倉田眞理子バレエクラス講師。名古屋女子大学助教。

豊永洵子 とよなが じゅんこ

(舞踊、名古屋女子大学助教)



兵庫県神戸市出身。2012年筑波大学体育専門学群卒業、2015年筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻修了(体育学)コンボラリーダンスを研究対象にする。平山素子、島崎徹、キミホ・ハルバート、平原慎太郎、TOMI PASSONENなど様々な振付家の作品やワークにダンサーとして参加。2011年よりDance company Nomade〜sの作品及び福島県いわき市での復興事業プロジェクトに参加。2012年Basheva dance company主催のGaGa winter intensive (Israel)、2015年SESSION HOUSE レジデンスカンパニー、マドモアゼルシネマに参加する傍ら自身の創作活動も行う。名古屋女子大学助教。

吉田文 よしだ あや

(パイプオルガン、名古屋女子大学講師)



ドイツ・ケルン音楽大学カトリック教会音楽科、並びにパイプオルガン科卒業。ドイツ国家資格A級教会音楽家及びドイツ国家演奏家資格取得。パーダーボルン大聖堂オルガニスト常時代理、ケルン南部司牧地区教会音楽家等を歴任。ベルリン・コンツェルトハウス、ルクセンブルグオルガンフェスティバル、ミュンスター大学をはじめとするヨーロッパ諸国のオルガンコンサート、音楽フェスティバルに招聘されている。「名古屋オルガンの秋」主宰。日本オルガニスト協会会員。名古屋女子大学専任講師。南山大学非常勤講師、南山エクステンションカレッジ、朝日カルチャーセンター講師。2015年度名古屋市民芸術祭特別賞受賞。

名古屋 グレゴリオ聖歌を 歌う会

南山大学エクステンションカレッジ講座「グレゴリオ聖歌を歌いましょう」(講師:吉田文)のメンバーを中心に発足。2013年名古屋オルガンの秋でのコンサート「グレゴリオ聖歌とパイプオルガン」以来、オルガンコンサート、クリスマスコンサートに出演。祈りの音楽であるグレゴリオ聖歌の心を探求し、体現することを目的として練習を積み重ねている。

委嘱作品「Quadruplum」作曲
トーマス・マイヤー=
フィービッヒ
(国立音楽大学名誉教授)



ドイツ・デトモルト音楽大学作曲科、同大学院作曲課程科卒業。1978年来日。国立音楽大学名誉教授。パイプオルガン奏者としても日本とドイツを中心に活動。ミュンスター大学、あいちトリエンナーレ祝祭ウィーク、国立音楽大学、エルゼ・ラスカー・コミュニケーション協会などより委嘱作品も多数。2014年より愛知県在住。

序文・解説執筆
林和利 はやし かずとし
(名古屋女子大学教授)



早稲田大学大学院文学研究科修士期課程修了。博士(文学)。専門は能・狂言を中心とする日本の古典演劇。東海能楽研究会代表。「逍遙フォーラム」を主宰する。著書「能・狂言の生成と展開に関する研究」「人間国宝 野村万作の世界」「なごやと能・狂言」「古今東西ニッポン見聞録」ほか多数。名古屋女子大学教授。中京大学・愛知淑徳大学・朝日カルチャーセンター・中日文化センター・NHK文化センター、各講師。

作品「渦巻樹」「スパイラルロード」展示
渋谷寿 しぶや ひさし
(名古屋女子大学教授)



名古屋女子大学文学部児童教育学科教授。第8回全国ウッドクラフト公募展、優秀賞受賞。第14回ハンズ大賞作品展、グランプリ受賞。CONTEMPORARY TOY OF THE YEAR 97、準グランプリ受賞。CCDOデザインアワード2005、審査委員特別賞受賞。平成23、26年度日本学術振興会科学研究費補助金審査員表彰。こども環境学会2012年大会ポスターセッション、優秀ポスター発表賞(共)、受賞。第22~28回丹波の森ウッドクラフト公募展、一般の部審査員。アジア文化造形学会副会長。

